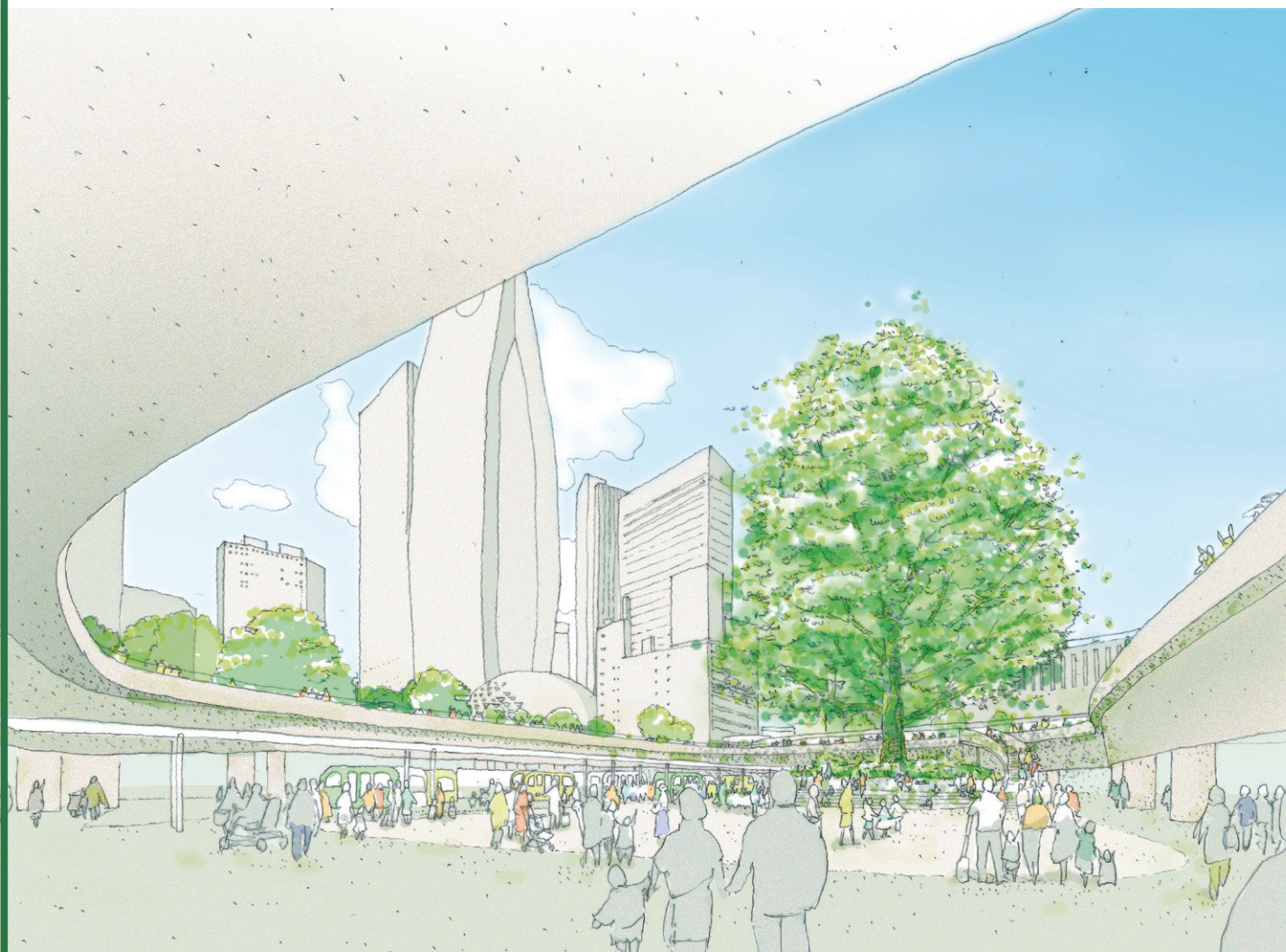


# 新宿駅西口駅前広場デザイン方針



生まれ変わります！

新宿駅西口駅前広場は  
**もっと**人のための広場へ

令和8(2026)年9月



東京都

新しい駅前広場のコンセプト

# 新宿駅西口駅前広場は もっと人のための広場へ

かつての新宿駅西口駅前広場は、モータリゼーションという時代の要請を受け、車やバスのためのロータリーと人のための広場の両立を目指して計画されました。新しい駅前広場は、地上にも地下にも人のための空間を広げ、みどりと光の中で人が集い、滞在できる駅前広場へ生まれ変わります！



駅前広場の利活用イメージ(イベント開催時)

※パースは完成予想のイメージ(2040年代)であり、関係機関との協議により変更となる場合があります。

緑

KEYWORD 1

のかなめとなる駅前広場

西新宿の新宿中央公園や4号街路から東口側の新宿御苑までをつなぐみどりの軸の「かなめ」となり、緑豊かで季節の彩りを感じられる広場を目指します。

光

KEYWORD 2

が差し込む明るい駅前広場

「ボイド」を生かしたデザインにより地下1階まで光を取り込み、地上階とのつながりと広がり演出します。人の流れを導き、迷わず移動できる分かりやすい空間を目指します。

人

KEYWORD 3

が集い、賑わう、快適な駅前広場

新たなシンボルとなる大きなシンボルツリーが人々の賑わいを優しく見守ります。心地よい緑陰を生み出し、いつでも快適に過ごせる場所を目指します。

※ボイド：地下からの吹き抜けとなる開口部

# デザインのポイント

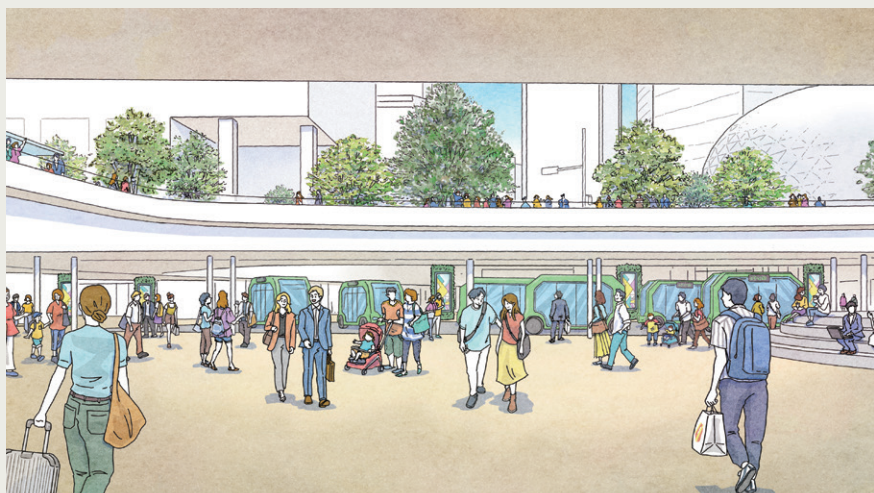
## 1 歩きやすく乗り換えしやすい駅前広場

バスやタクシーの乗降場を再編し、地上部の中央に歩行者中心の広場を設け、地下の歩行者空間も広げます。鉄道からバスやタクシーへの乗り換えもわかりやすくします。



## 4 ボイドを生かした見通しの良い地下広場

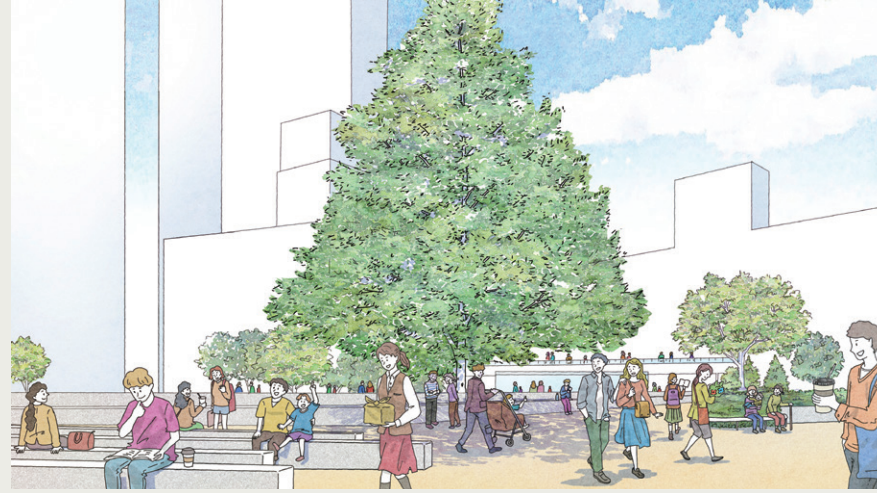
見通しの良い地下広場を整備し、「ボイド」越しに地下からも周辺のビルを見つけやすくします。わかりやすい上下動線も整備し駅周辺の移動をスムーズにします。



※ボイド：地下からの吹き抜けとなる開口部

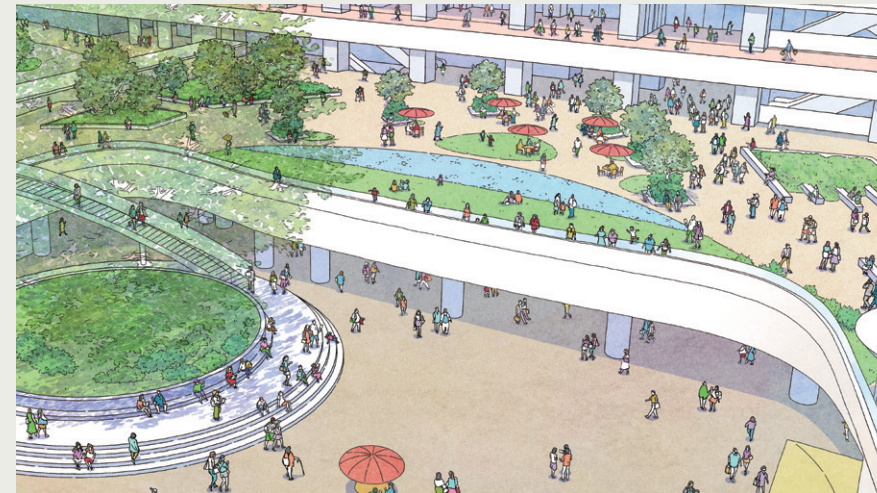
## 2 駅前広場を象徴するシンボルツリー

「世界の乗降客数を誇る新宿駅」と「西口の高層ビル群」の大きなスケール感にふさわしく、温かさや愛着を感じさせる象徴として、広場に大きなシンボルツリーを配置します。



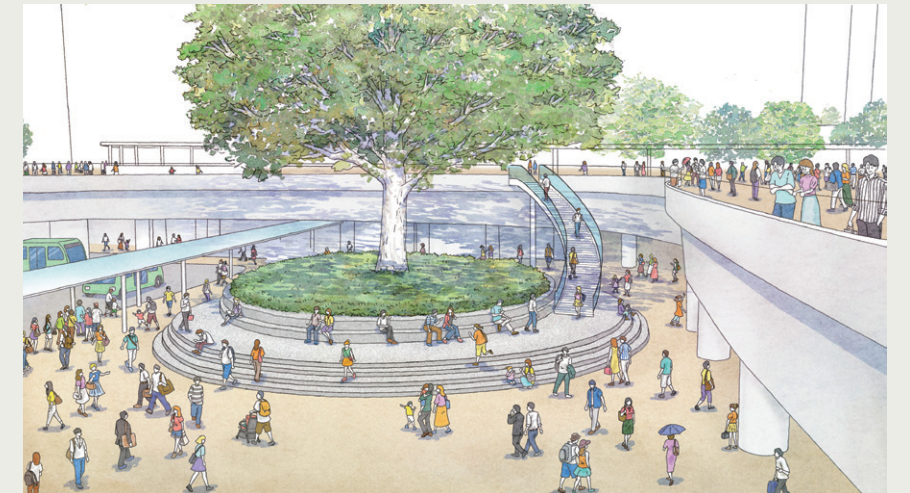
## 5 みどり溢れる快適な屋外空間

シンボルツリーをはじめとしたみどりの配置により緑陰を生み出します。最新技術の導入も念頭に置きながら、夏でも冬でも快適な屋外空間を創出します。



## 3 シンボルツリーに近づける立体的な回遊動線

シンボルツリーの近くに、地上と地下をつなぐ上下動線と、居心地のよい滞留空間を整備することで、シンボルツリーがより親しみやすい存在となることを目指します。



## 6 広く立体的なイベントスペース

広い広場空間は、イベントスペースとしても活用できます。「ボイド」と階層構造を活かし、地上と地下を一体的に使用したイベントの開催など、多様な利活用が可能な空間になります。



※パースは完成予想のイメージ(2040年代)であり、関係機関との協議により変更となる場合があります。

# 新宿グランドターミナルへの再編

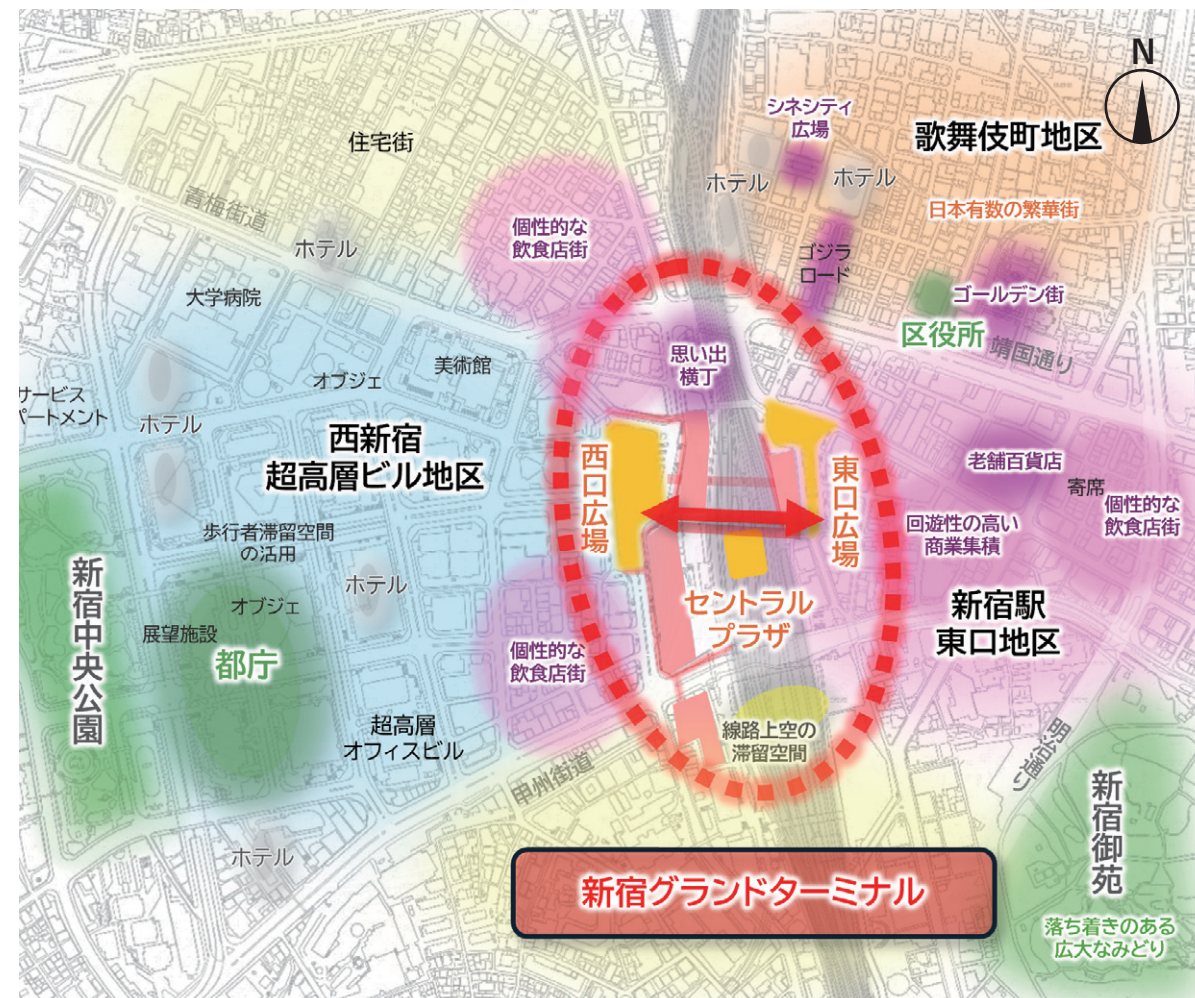
新宿駅は、世界一の乗降客数を誇る巨大なターミナルであり、首都・東京を象徴する拠点の一つです。

西新宿地区は、これまで、1960年代の新宿副都心計画等に基づき、道路等の基盤整備が進められ、また、多くの超高層ビルが建設されるなど、日本を代表するビジネス街として発展してきました。

近年、新宿駅周辺では、施設や駅の老朽化、歩行者の滞留空間の不足、駅東西の回遊性の低さなどの課題が顕在化しています。

現在、誰にとっても優しい空間がまちとつながり、様々な目的をもって訪れる人々の多様な活動にあふれ、交流・連携・挑戦が生まれる「**新宿グランドターミナル**」への再編を進めています。

## 【新宿グランドターミナルと駅周辺の個性】



西新宿超高層ビル地区

- ・超高層オフィス、ホテル等が集積
- ・新宿副都心計画と大街区による、ゆとりのある市街地を形成

歌舞伎町地区

- ・飲食店や娯楽施設が集積する特徴的な娯楽街
- ・シネシティ広場周辺にエンターテインメント施設やホテルが集積

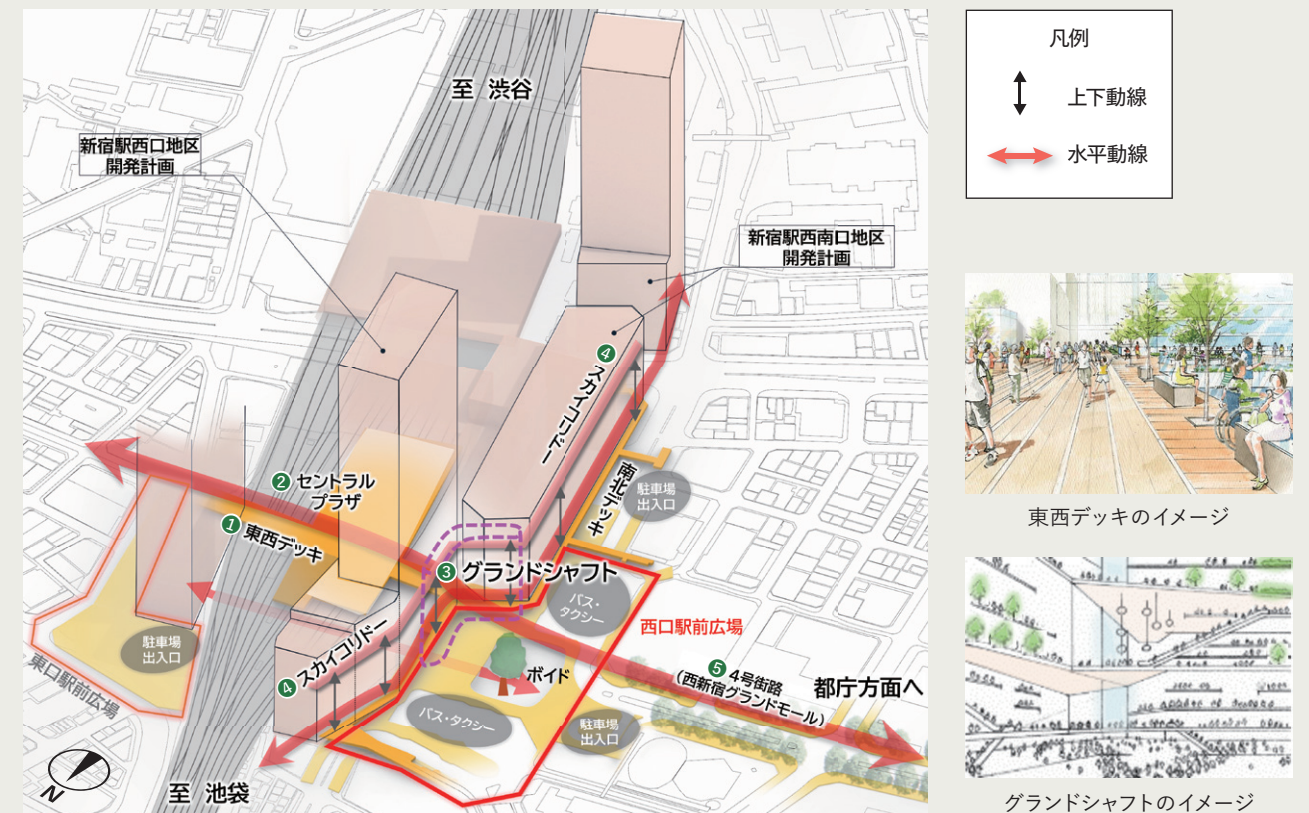
新宿駅東口地区

- ・多様な商業・文化機能の集積による  
一大商業集積地区

出典：新宿グランドターミナル・デザインポリシー2026、新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～

「新宿グランドターミナル」への再編に向けて、駅、駅前広場、駅ビル等が有機的に一体化した次世代のターミナルとなることを目指し、東西デッキやセントラルプラザの整備、駅前広場の再編と歩行者空間の拡張、みどりの創出などを行います。

【新宿グランドターミナルにおける西口の整備イメージ】



出典：新宿の拠点再整備方針～新宿グランドターミナルの一体的な再編～、新宿グランドターミナル・デザインポリシー2026

## 1 東西デッキ

線路上空に新設され、  
東口と西口をつなぐ歩  
行者デッキ

## 2 セントラルプラザ

グランドターミナルの  
シンボルとなる線路  
上空の広場空間

### 3 グランドシャフト

駅前広場と東西デッキ、  
スカイコリドーをつなぐ  
上下動線

## 4 スカイコリドー

西口の駅ビルをつなぎ  
まちからも見える中層  
階の歩行者回廊

## 5 4号街路

新宿駅と新宿中央公園  
をつなぎ、再編が計画  
されている街路

工事着手前の新宿駅西口駅前広場周辺(令和3年撮影)



# 新宿駅西口のあゆみ

## 西新宿地域の 移り変わり

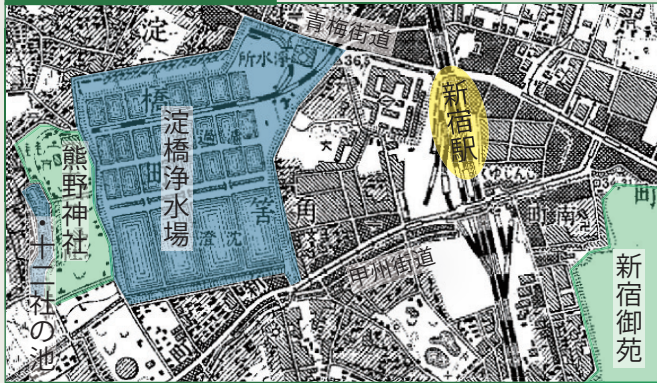
新宿駅西口駅前広場が位置する西新宿地域は、時代ごとの社会の変化やまちの発展に合わせて、その役割や土地利用を変えながら歩んできました。  
歴史を振り返ると、西新宿地域には常にみどりや水に親しめる空間がありました。地域の歴史を踏まえ、西口駅前広場を新たな時代にふさわしい空間へと再編します。

1862(文久2)頃

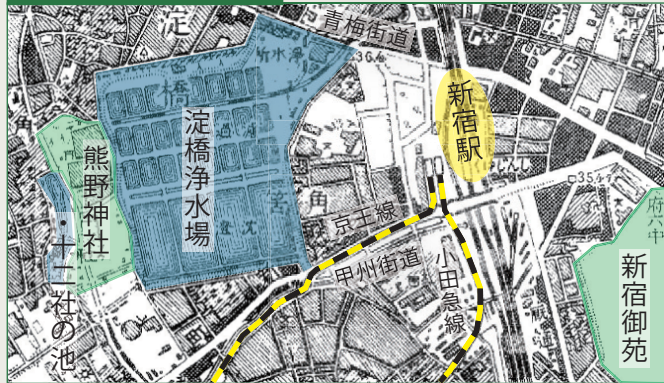


出典:江戸切絵図 内藤新宿千駄ヶ谷絵図(国立国会図書館)に加筆

1919(大正8)



1945(昭和20)



1970(昭和45)



出典:国土地理院発行2.5万分1地形図

江戸

明治

大正

昭和

● 1699(元禄12)年 内藤新宿開設

● 1885(明治18)年 日本鉄道新宿駅開業

● 1898(明治31)年 淀橋浄水場完成

● 1916(大正5)年 京王線開業

● 1927(昭和2)年 小田急線開業

● 1952(昭和27)年 西武鉄道西武新宿駅開業

● 1959(昭和34)年 丸ノ内線新宿駅開業

● 1966(昭和41)年  
新宿駅西口駅前広場竣工

十二社の池



十二社大池の舟遊び『淀橋誌考』



歌川広重「熊野の滝」

西新宿(角筈)の熊野神社一帯は、かつて十二社と呼ばれ、池や滝を作る風情ある景観が、江戸時代から多くの人々に親しまれてきた。

淀橋浄水場



出典:新宿歴史博物館

1898(明治31)年に淀橋浄水場が整備され、広い水辺空間ができた。水を基軸とした都市基盤として、地域に潤いをもたらす。

京王百草園



提供:京王電鉄、小田急電鉄

1916(大正5)年に京王線、1927(昭和2)年に小田急線が開業。みどりの多い郊外への移動の拠点となる。

向ヶ丘遊園



新宿中央公園



出典:新宿歴史博物館

1968(昭和43)年に「都市にみどりを」をテーマとし、浄水場の記憶を残す水施設が配置された新宿中央公園が整備される。みどりや憩いが西新宿に回帰。

## 西口駅前広場(1966年)の設計思想

### 建築家・坂倉準三らによる広場設計

新宿駅西口駅前広場は、建築家・坂倉準三らによって計画され、1966年に竣工しました。

地上部を大きく開口させ、地下1階まで太陽光を取り入れるとともに、地下1階に噴水池を設置する「太陽と泉のある立体広場」であり、人のための都市空間を具現化した先進的な事例とされています。

広場の再編に当たり、「新宿の拠点再整備方針」に基づき、「西口立体広場のボイド等を継承・発展」、また「新宿グランドターミナル・デザインポリシー2026」に位置付けられている「駅前広場と建物が一体となった立体都市広場」を踏まえ、検討を進めています。

### 設計当時の考え方

- 人と車の混雑を解決するため、動線を地下と地上に分離
- 地下に入る車のために、地下からの吹き抜けとなる開口部「ボイド」を整備
- 「ボイド」によって地下に光を取り込み、快適な雰囲気を付与
- 副都心の発展に相応しい清新な広場

出典:坂倉準三の都市デザイン  
新宿駅西口広場



車路およびボイド 出典:新宿歴史博物館

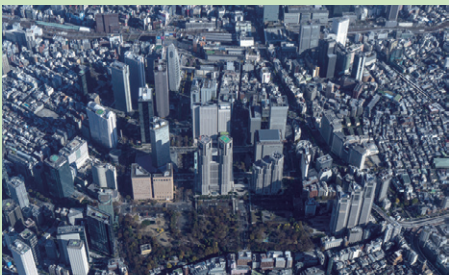


西口広場中央車路入り口 出典:新宿歴史博物館

# 時代の変化と新しい広場づくり

## 広場を取り巻く環境の変化

新宿駅西口駅前広場は、1966年の整備以降から現在に至るまでの間に、周辺環境及び社会的要請の変化に伴い、求められる役割が変化しています。



### 周辺環境の変化

- ビジネスエリアの発展による西新宿のビル群の高層化
- 駅施設及び駅ビルの老朽化
- 駅利用者数の増加

### 社会的要請の変化

- 歩行者空間の充実や賑わいの創出など、公共空間へのニーズの多様化
- ヒートアイランド現象等による暑熱を背景とした緑化の推進

## 現在の課題

### 1 まちとしての課題

- 線路などによって新宿駅の東西を横断しづらい
- 周辺の貴重なみどりである新宿中央公園や新宿御苑とまちとの結びつきが弱い

### 2 新宿駅としての課題

- 各階に改札や乗降場があり、乗換経路や駅構造が複雑である
- 利用者が多いため、経路によっては移動が集中・交錯し、複雑な駅構造がよりわかりづらくなっている

### 3 駅前広場としての課題

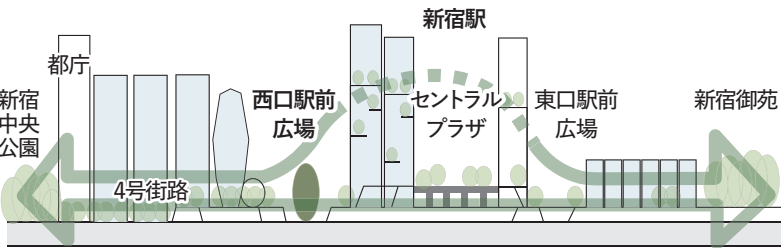
- 自動車交通を処理するための構造物やロータリーが空間の多くを占めている
- 高層ビル群によって広場が埋没し、人の滞留空間が不足している

## 新しい広場づくりの考え方

### みどりを生かした東西骨格軸の形成

新宿駅周辺には4号街路や新宿中央公園、新宿御苑といった貴重なみどりがあり、これらをつなぐ、みどりの東西骨格軸を形成します。

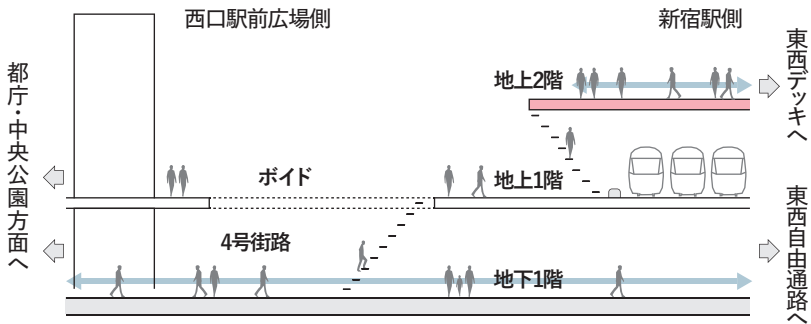
西口駅前広場がこの軸とグランドターミナルを結ぶ「緑のかなめ」となるように、様々な場所でみどりを感ずることが出来る広場を目指します。



### 地下・地上1階・地上2階の階層構造の可視化

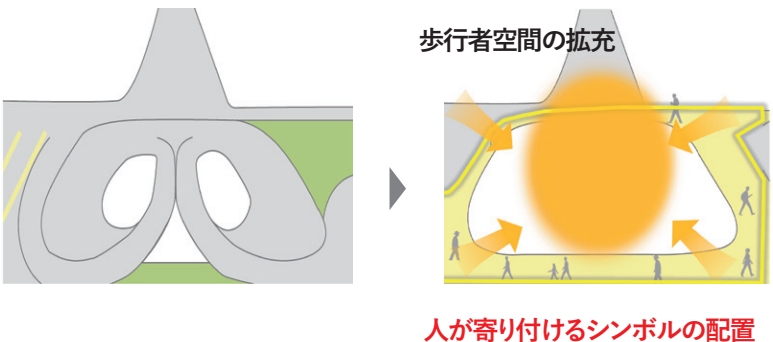
西口駅前広場は、地上1階にはバスやタクシー乗り場が集まり、地下1階で4号街路と東西自由通路と接続、地上2階では東西デッキと接続する立体的な広場となります。

西口駅前広場の特徴である中央の吹き抜け空間「ボイド」により、駅施設の位置関係や縦動線を把握しやすくなり、スムーズな移動や乗り換えを実現します。



### 人の活動を支える 広場空間の再構築とシンボルの創出

車道を横断することなく、歩行者が回遊できる道路の整備と併せて、人中心の空間を拡充します。  
ここでは、スムーズな移動だけでなく、様々なイベントや滞留、待合などの多様な活動も可能となります。  
また、温かさや揺らぎ、安心・親近・愛着を持つことができ、これからの歴史を未来へ託すものとして、シンボルを配置します。



# 新宿駅西口駅前広場の施設計画

道路と歩行者空間の配置を見直すことで、自動車交通中心の広場から歩行者が滞留できる空間に再編します。  
令和7年9月に、歩行者中心の駅前広場に向けたファーストステップとして、動線を一部変更しています。

凡例

BUS

バス停留所

TAXI

タクシー停留所

P

駐車場出入口

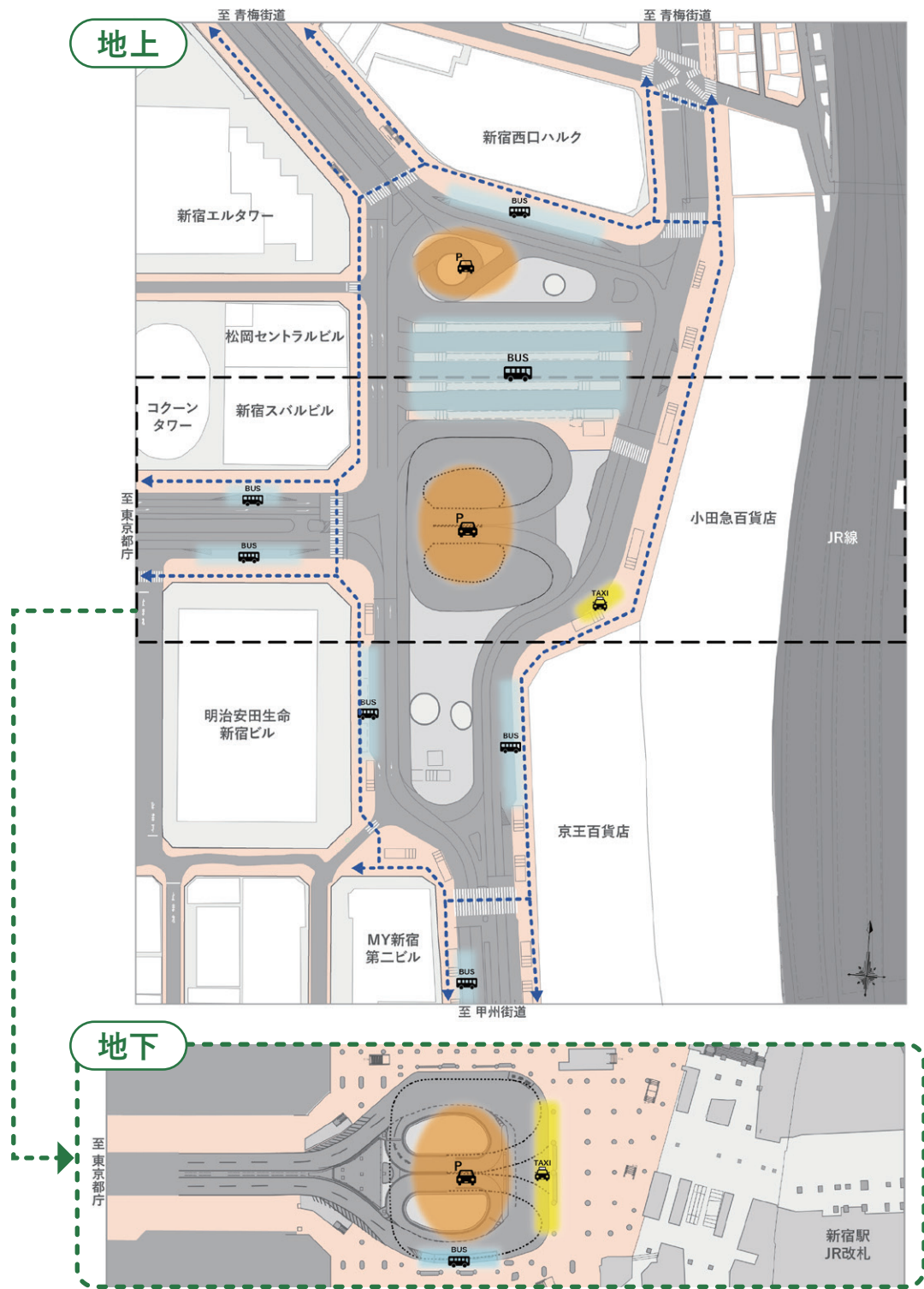
2階デッキ(東西デッキ)

車道空間

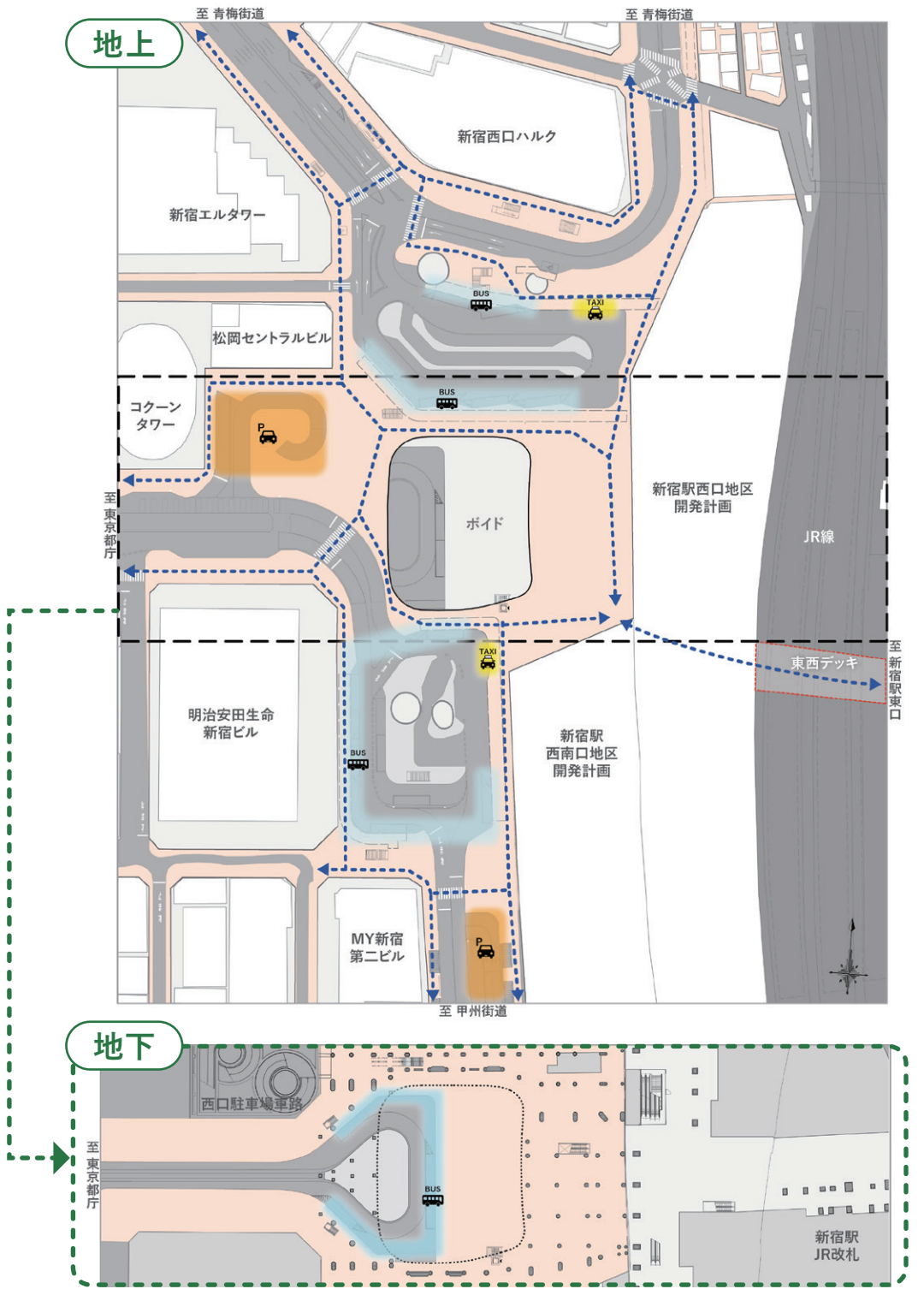
歩行者空間

動線イメージ

## 工事着手前（令和3年時）



## 完成時



※現時点での計画であり、関係機関との協議により変更となる場合があります。

# 今後の予定

## 駅前広場の利活用及び運営のあり方

新宿駅西口駅前広場は、待ち合わせや滞留、休憩、回遊の場としての利用や、イベントや情報発信等を行う空間としての活用も期待されます。

多様な人々が快適に利用し、賑わいや魅力を持続的に創出する空間として、新宿駅西口駅前広場を育てていくためには、関係者が連携しながら適切な運営・維持管理を行う「エリアマネジメント」の取組も重要です。

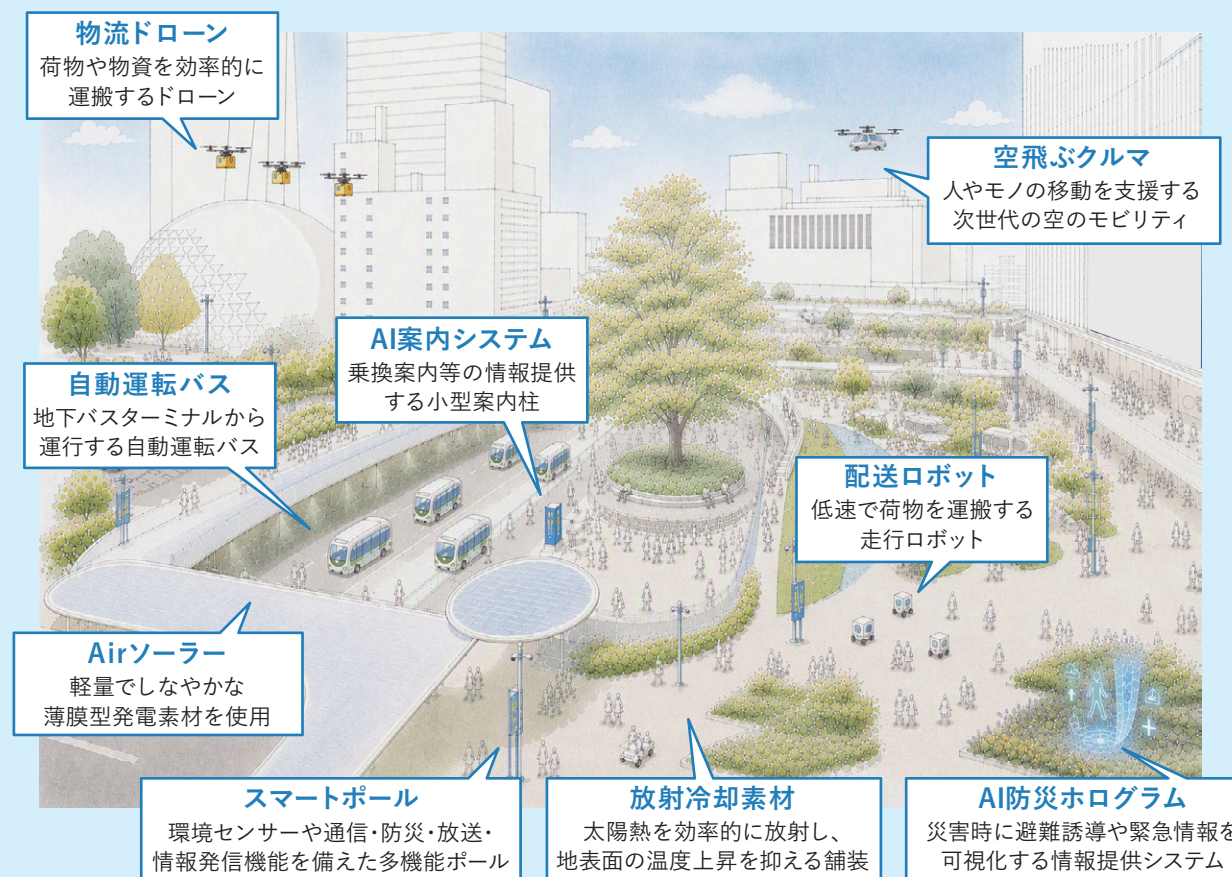
今後、こうしたエリアマネジメントの観点も踏まえながら、公共空間としてのルール形成、周辺関係者との連携及び維持管理と利活用等の検討を行っていきます。

## 今後のスケジュール

本デザイン方針は、新宿駅西口駅前広場のデザインのポイントや将来イメージを示すことを目的に策定しました。本デザイン方針を踏まえ、今後、関係機関等と協議しながら、構造物や舗装、植栽の樹種などの設計を進めます。工事を順次進め、令和17(2035)年度の概成を目指しています。

## コラム 未来の新宿西口駅前広場

現在、様々な最先端技術の研究・開発が進められています。ここでは、「もしこれらが実現したら」という想定で、誰もが安全・快適に、利便性高く過ごせる未来の西口駅前広場のイメージを描いています。



生成AIを用いて作成した最先端技術の適用例

## 関連する上位計画

### 新宿グランドターミナル



新宿の拠点再整備方針  
～新宿グランドターミナルの  
一体的な再編～(平成30年3月)



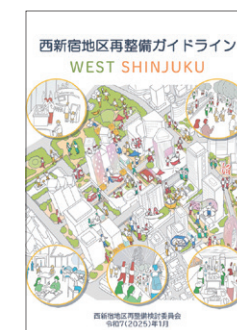
新宿グランドターミナル・  
デザインポリシー2026  
(令和8年3月)



### 西新宿地区



西新宿地区再整備方針  
(令和5年3月)



西新宿地区  
再整備ガイドライン  
(令和7年1月)



## 検討体制

新宿の拠点再整備検討委員会設置要綱 第8条により設置された、空間・景観づくりについて検討するデザイン検討部会にて、本デザイン方針に関する協議・検討を行いました。

### 新宿の拠点再整備検討委員会



#### デザイン検討部会

新宿の拠点再整備方針の具体化に向け、空間・景観づくりについて検討

- 座 長: 岸井隆幸(政策研究大学院大学 客員教授)
- 副座長: 中井検裕(東京科学大学 名誉教授)
- 委 員  
内藤廣(東京大学 名誉教授)、倉田直道(工学院大学 名誉教授)  
鉄道事業者(東日本旅客鉄道(株)、小田急電鉄(株)、東京地下鉄(株)、京王電鉄(株)、西武鉄道(株))  
新宿区(都市計画部)、渋谷区(まちづくり推進部)  
東京都(都市整備局都市づくり政策部、都市基盤部、市街地整備部)
- オブザーバー: 国土交通省(都市局)
- 事務局  
東京都(都市整備局都市づくり政策部)  
新宿区(新宿駅周辺整備担当部)

# 新宿駅西口駅前広場デザイン方針

令和8（2026）年9月発行

編集・発行 東京都 都市整備局 市街地整備部 区画整理課  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5320)5442